



K3P 関甲新学生野球
オータムカップ

上武大学C戦
3-0

写真 上武大学Cに完封勝利した荒木



荒木 嶺臣

現社1年

関甲新学生野球・オータムカップの常磐大学Bの2戦目、上武大学C戦は、常磐大学Bは3-0で完封勝利を納めた。

【11/7 上武大学第2野球場】1回表、常磐大学Bの攻撃は1番安藤出望（1年）がライト前へ運び、ノーアウト1塁と切り出す。しかし続く2番大塚偉歩己（1年）、3番小関寛太（1年）、4番所宜和（1年）が倒れ、得点ならず。

1回裏、常磐大学Bの先発投手は荒木嶺臣（1年）。2者連続三振をとるが、四球とヒットでランナー1,2塁のピンチを作るも、5番バッターをレフトフライに打ち取り、まずまずの立ち上がりを見せる。

2、3、4回、常磐大学Bの攻撃は、ヒットは出るも試合は動かず。

両者いずれも無得点のまま迎えた5回表、常磐大学Bの攻撃は、先頭打者、6番川波祐貴（1年）がツーベースヒットでノーアウト2塁。続く7番長瀬祥太（1年）もヒットで1,3塁とチャンスをつくり、8番高栖雅哉（2年）がライトへの犠牲フライで常磐大学Bが先制する。1-0。その後も荒木の好投で上武打線を得点0に抑える。

7回表、常磐大学Bの攻撃は、先頭の5番豊泉翼（1年）

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
常磐大B	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
上武大C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

が四球で出塁、6番川波が送りバントでランナーを進め、1アウトランナー2塁のチャンスを作る。続く7番長瀬が左中間にツーベースヒットを放ち、2塁ランナーの豊泉が生還。リードを2点に広げ、2-0。

8回表、常磐大学Bの攻撃は、先頭打者の2番大塚がレフトフライに倒れるも、3番小関が四球、4番所がライト前ヒットで1アウト1,3塁のチャンス。5番豊泉の3球目にパスボールで得点。3-0と差を広げ、これが決勝点となった。

先発の荒木は、投球数129球、被安打3、奪三振9、与四球3、与死球1、失点0とほぼ完璧な投球をみせ、常磐大学Bが完封勝利した。3-0。

バッテリーは荒木嶺臣（1年）—長瀬祥太（1年）。

（文・木村俊輔・岩附詳陽）